

第1回スタジアム整備のあり方検討委員会 会議録

日 時 平成29年8月7日（月）午前9時30分～12時

場 所 ルポールみずほ3階「ふよう」

出席者（順不同）

委員：齊藤（譲）委員、阿部委員、熊谷委員、岩瀬委員、小畑委員、千田委員、金委員、板橋委員、伊藤委員、桂田委員、高橋委員、荒井委員、相場委員、丸野内委員、松村委員、渡邊委員、齋藤（一）委員、清水委員、佐々木委員、原田委員、飯坂委員 計21名

○会議次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 委員長選出
- 5 委員長あいさつ
- 6 議事
 - (1) 検討委員会を設置するまでの経緯について
 - (2) 本県及び国内の球技場の状況について
 - (3) 国のスタジアム・アリーナ改革について
 - (4) 今後の検討委員会の開催予定等について
- 7 閉会

○内容

開会

県スポーツ振興課 加藤主幹

県スポーツ振興課長あいさつ

本日は大変お忙しい中、第1回スタジアム整備のあり方検討委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、検討委員会を開催するにあたり、委員を快く引き受けていただき、感謝申し上げます。

さて、ご存じのとおり本県のプロサッカーチームであるブラウブリッツ秋田は、開幕から好調を維持し首位を走っており、多くのサポーターや県民を喜ばせてくれます。3月には約18万筆のスタジアム整備を求める署名が知事と秋田市長に提出され、県内でスタジアム整備の機運が高まってきているものと受け止めております。

こうしたことなどから、知事がスタジアム整備の検討を公約に掲げ、そして、先の

6月議会においてスタジアム整備のあり方検討委員会の予算を議会に認めていただき、本日の開催となったものであります。スタジアム整備は、多額の財政負担を伴う大規模事業となることから、慎重に議論を重ねるとともに、多くの県民から理解を得ることが前提となります。本日もご出席いただきました委員の皆様は所属が多岐にわたっております。委員の皆様には、本県におけるスタジアム整備の方向性について、どうか忌憚の無いご意見を賜りますようお願い申し上げます。

委員紹介

第1回目の検討委員会の開催にあたり、委員及び県側出席者の紹介

委員長選出について

スタジアム整備のあり方検討委員会設置運営要綱第2条第4項の規定で「委員長は委員の互選による」と定めていることから、互選により委員長は齊藤（譲）委員が選出された。

委員長あいさつ

ただ今、本検討委員会の委員長に選出されました、公益財団法人秋田県体育協会の齊藤でございます。どうぞよろしくお願いたします。

先ほど、県からの挨拶にありましたように、チームの好成績やスタジアム整備を求める署名の提出などを受け、本日の検討委員会を開催する運びとなりました。この後、委員の皆様にはそれぞれの立場から、忌憚の無いご意見をいただきたいと思っております。本県にとりまして、スタジアム整備の方向性はこういった形が望ましいのかの視点に立ち、秋田の未来につながる議論を深めていきたいと考えております。限られた時間ではありますが、皆様のご協力をいただきながら、会を進めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願申し上げます。

副委員長選出

設置運営要綱の規定により、副委員長は委員長が委員の中から指名することとなっていることから、伊藤委員を副委員長に指名した。

議事（1）検討委員会を設置するまでの経緯についてから（4）今後の検討委員会の開催予定等についてまで、事務局が説明を行った後、以下のとおり意見交換を行った。

委員

私ども後援会は、もちろんブラウブリッツ秋田の応援、物資両面の支援をしている組織でありますので、もちろんスタジアムというものには当然必要であると思っております。

ただ、その方法論、あるいは先ほど委員長からもお話がありました、場所、具体的なものに関しては、この検討会に委ねる場面もあるわけではありますが、署名というのは、正直我々もチャレンジでありましたけれども、正直、関心を興味に変えなければならなかったですし、その興味が強い意見になったり要望になったりするまでの時間はこれからももちろん必要だと思っております。

スタジアムがどうあるべきかというのは、やはり私どももその署名に対して案内をする際に書かせていただきましたけれども、スポーツを通じた感動だとか、あるいはスポーツを通じて秋田の誇りだとか、単純なスタジアム、サッカーをするだけ、あるいはブラウブリッツの活躍の場というだけではなく、もっと先を見越したいいわゆる秋田を元気にしたい、元々のブラウブリッツ秋田の企業理念がそうでありますので、その手法としてこのスポーツというものがあるわけで、ぜひ多くの感動だったり、秋田を元気にするというような目的が果たせるスタジアムが望ましいと私は思っております。

ただ、具体的に先ほども申し上げたように、場所、どのような規模というのはこれから協議をする、あるいはブラウブリッツ秋田が望むものを応援していきたいと思っております。私も秋田県出身者で生まれ育った所ありますので、ぜひ秋田を活性化できるような、あるいはスポーツに限らず、文化、あるいは歴史だとか、本当に人が集う、多くの思い出だったり、多くの記念だったり、そういう象徴になるスタジアムが望ましいと私は思っております。

委員

この検討委員会が私は秋田の子どもたちにどういったものを残していくのかという議論の場だと私は思っております。このスタジアムを核として、地域社会や地域経済がいかに元気になっていくか、地域の将来に対していかに夢が持てるようになるか、そこが非常に大きなポイントになってくるのではないかと考えています。そういったことを外さないことを目的とした議論が望ましいと考えています。そのためにもこうして行政だけではなく、民間企業の皆様、各種団体、市民・県民と一緒に前向きに協力し合って本件に関し取り組むことが重要なのではないかと考えています。

先程来、委員長の方からブラウブリッツ秋田がというような形でお話をいただいておりますが、これは私からすると単なるきっかけにしかすぎないと思っております。ブラウブリッツ秋田のためにスタジアムを造るということではなく、やはり秋田のまちづくり、先程お話した秋田の未来、子どもたちのためにといった部分が非常に重要なポイントになってくるのではないかと考えています。

私も現在Jリーグの中のスタジアム検討部会といってJリーグの中で何名かの方々が入った部会に入っています。こちらはそれこそ日本の先進事例のみならず世界各地の先進事例を基にいろんなこれからの日本のスタジアムをどうしていったらいいのだろうかを議論しています。その背景にありますのは、先ほどありました国が現在国内のスポー

ツ産業を5.5兆円から15兆円にしようとするねらいがあります。ようやく国自体が日本の国内のスポーツ産業が、いわゆる世界と比べて伸びていない、もっと産業として成長できる分野であるということをはっきりと今回位置づけていただいた。

そういった中で、スポーツの産業化に向けて非常に大事なのは、やはりみる環境だと、みせる環境だと、舞台装置であるということをはっきりお示しいただいたのは、この協議会にとっても非常に前向きに働いてくるのではないかと思っています。先ほど8月中旬には新たな助成事業という話が出ています。私自身、この協議会として民間企業も入っておりますし、行政も入っています。各種団体の皆様も入っていますので、この協議会として助成事業に手を挙げて、いくらかでもそういった調査費をつけた中でコンサルタントの方ですとか専門分野または他地域、他分野の方をたくさん入れて、秋田にとって一番良いものはどんなものが良いのかという話ができれば楽しいと思っています。私も多分この中で一番若いのかなと思っていますが、どんどん積極的にご意見を申し上げますが間違えて認識いただきたくないのが、ブラウブリッツ秋田のためにこのスタジアムの議論を動かしていくのではなく、街づくり秋田のためにお話しているということをお前提として皆さんには認識いただければと思っています。

委員

秋田県スポーツ推進審議会の会長ということでこちらに呼んでいただいておりますが、審議会を代表して発言するわけではありません。そういう観点から発言していきたいと思えます。この段階でどういうことを申し上げるのかということは決めないで来ているというところがありますが、やはり今の雰囲気的には、先ほど委員が言われたようにこの機運というものがあるので、何となく造らなければだめだという雰囲気があることを個人的には危惧しております。そういう機運で造られるものではないと思っています。

こういった問題を秋田県でわざわざ議論するということなので、なぜこの時代に秋田県にスタジアム整備が必要なのかといったところが明確にならない限り造らない方が良く個人的には思います。スタジアムで何をしたいのかというのが当然そこには団体の方とかスポーツクラブとかチームが、そこに関係してくるわけなので、そこでやれることがあるなというそういったところで重ねていろいろな活動が広がっていくんだろうとは思いますが、一方で秋田県としてこのスタジアムをどう活用していくのかというところをセットでこの議論を進めていかなければいけないと思っています。

具体的なものではないのですが、全国を見ているわけではないのですが、例えば私が所属している大学も数年前までは土のグラウンドで、砂埃が舞うようなところで、回りの住民から洗濯物を干すと土で汚れてしまうといった苦情があって、人工芝に変えたんですね。人工芝に変えて良いことは、今までグラウンドなんか目に向けていない、例えば関心をもたない女子学生が、弁当を持って人工芝の上で広げて食べるということが起こったり、関心を引くという点では面白いと思ったりするんですが、一方管理という

ことになると、今までそこに無かったはずのフェンスがグラウンドの回りを囲むということが現実に起こるわけです。これは日本だけのことなのか分からないのですが、他の所でもグラウンドの中はすごく良くなると同時に回りにフェンスが立って自由に入られなくなったということが現実的にあるわけで、やはり施設を管理する方からすると大事にしたいので、そういう気持ちがあるということは分からない訳ではないですが、そこがどのように使われてきたのかということを見ると、個人的な考えですが多くの県民の方が利用できるような、そういった場になっていくためには、やっぱり管理の方法と先ほど言ったような何をするのかといったところがはっきりしているという事が、スタジアムを整備していくうえでは大前提ではないかと思います。

委員

私は県立脳研センターの方で、心臓の方の医師をしております。スポーツに関してはずっと剣道に関わりがあったのでサッカーというのは今までやってきた事とは別ですが、国体等で十数年対応してきたので医者目で見るとという形で話をさせていただきたい。

本県の重要な課題は高齢化なんです。10年先、今もそうなんですけど65才以上の割合は全国一でおそらくいろんな施策があっても全国のナンバーワンを10年、20年は譲ることはおそくないだろうと私自身は思っています。そういうことで医療の世界も大変なことになるんですが、そういう目で見ますと、じゃあ今ということではなくて、10年先、15年先にどういうスタジアムを造るにしても、どういう形になっているのかということ想像しなければならないと思います。

それから私個人としては、サッカースタジアムは理想ではあると思いますが、サッカーオンリーというのは現実的では全くないだろうと思います。それで既存の施設であっても老朽化していきますのでどっかの時点で改修をしなければならない。そういうことを考えると、もちろん新しく造るのも一つのアイデアですが、既存の施設を将来の例えばどの時点で改修するという見込みになるのかも合わせて検討をするべきでありましょうし、もちろんブラウブリッツも活躍しているので願いとしては専用のスタジアムを造るというのが私個人の願いでもありますけど、やっぱり予算があることで造ったとしてもどうやって集客するのかということが一つの問題であると思います。

先ほど子どもたちのためという話をしましたが、秋田は本当に子どもが少なく、10年後どうなっているかぞっとします。そうすると一つの考えとして、高齢者にとって何かのメリットがあるようなものを造らないと、長続きはしないだろうと思います。例えば高齢者が来るのは殆ど孫とかですね、高齢を巻き込まないと来ないんで、何かのイベントをサッカーと作るとか、もう一つは要するに対戦相手がいることなので、対戦相手をどうサポーターも合わせて集客するかということだと思います。

それからもう一つは、秋田は冬の問題がありますので、冬の間、何かやれるようなものを一緒にしないと、結局、晴れた天気の良い時しか活躍できないスタジアムというも

のは現実的ではないだろうと個人的には思います。

委員

私はスタジアム・アリーナの今日の資料にありました改革指針のワーキングメンバーの一人をさせていただいておりましたこと、また、全国複数のスタジアムに限らず、アリーナもやらせていただいているんですが、全国のスタジアム・アリーナの複数のいろんな事案の検討委員会の委員をさせていただいておりますので、少し全国のいろんな議論の委員会に出させていただいたところの横並びの観点から少しお話をさせていただければと思います。

全国のスタジアム・アリーナの委員会に出ていますと、大事なのはこの検討委員会のこれは事務局へのお願い事項になりますが、4回の委員会でどこまで決めていくんだらうという所を整理していただければ嬉しく存じます。それを決めずにやっている委員会に出させていただきますと、いつの間にかスタジアムの夢を語るとか、アリーナの未来を語る会になってしまい、結局結論が出ない懇話会で終わってしまう委員会をいくつか見てきまして、せっかくこれだけここに秋田のオールスターの皆様が集まっているのに結局夢を語って終わったということにならないように、まず私が流れを作るというわけではないですが、流れができていような会に出させていただきますと大体最初に大きいコンセプトを決めて、どういうコンセプトの街づくりとか子どもたちというのがありますからコンセプトを決めることが大事だと思っています。

その上で、次にどういう場所で、どれくらいの規模のものを造るかというのが大体流れとしてはゴールに行く流れになるのかなと思っています。今日の資料にありましたが、場所のイメージがないとおそらく皆さんの議論も具体化していかないと思っている次第ですので、場所の議論もあると良いのかなと思っています。二つ目には、委員からご提案のありました国の事業調査に手を挙げるというのがあったと思いますが、正に8月、秋くらいには募集があると私も認識しておりますが、これに挙げていって一つ具体的な事業の姿、かつちり決めなくても良いのかも知れませんが、そこできちっとお金を使って事業を決めていくということも大事ではないかと思っています。ですので、委員のご提案もそういう思いから重要なのではないのかと思っている次第です。ただ、国の調査に応募されるとなりますと、国の調査の要綱が先進事例を募集するということになっていますので、正直申し上げますと単純にスタジアムを造りたいので調査費をくださいというのでは、手が上がっても、なかなか採択されるかは、もちろん国が決めることではありますが、横並びの事例であっても、それだけでは先進というのは分からない部分があります。

幸い秋田には今日の資料の15ページにスポーツ立県あきたを目指すというところがあります。また、委員から子どもの数が少ないというのがあったと思いますので、まちづくりという複数の委員の皆様のキーワードを併せ持ちましてスポーツ立県あきた、ま

ちづくり、子どもたち、そういうところが大事かなと思っておりますし、スポーツ立県あきたというものを掲げられるのであれば、みるスポーツ、するスポーツ、また見るスポーツの観点では、今日はサッカーとラグビーの関係の皆様スタジアムということでご出席かと思いますが、スポーツ立県あきたでは、きっとそれ以外にもバスケットボールとか、バドミントンで世界に誇れるチームがあると思っておりますので、そういう秋田のスポーツ資源全体を委員の皆様で考えていく議論が後半ではあっても良いのではないかと思います。その点はスタジアムに限らずご提案は私も申し上げたいと思います。

委員

まずもって、この度の検討委員会を開催していただいたことに対して心から厚く御礼申し上げます。我々サッカー協会はブラウブリッツと両輪のごとく邁進しております。そしてこの度の活躍がこういう機運を盛り上げたことに対しましてもブラウブリッツに厚く御礼申し上げます。そして後援会にも18万人の署名を集めたことに対しても厚くお礼申し上げたいと思います。

今、秋田県のこうしたスタジアム構想に対しまして日本サッカー協会からも大変な関心をいただいております。田嶋会長からも是非北国の前例としてドーム型のスタジアムはどうかということで提案書を参考にしてくださいということでいただいております。そういう前例に関しましては日本サッカー協会もどんどん利用してほしいと、そして我々サッカー協会から専門家を送り出して参考にさせていただければという言葉いただいております。ブラウブリッツ秋田も頑張っております。そういう意味でも選手方、そしてチームの皆さんのモチベーションのためにも是非スタジアム構想のための力を賜ればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

委員

今日の資料の中で出てきますスポーツ庁の未来改革会議の委員をしておりまして、まさしくこれからのスタジアム・アリーナ整備のあり方という基本的なところを決めていく委員として出させてもらっていました。それと同時に経済産業省の経済産業審議会の委員もしておりまして地域未来投資促進法の法案の検討及び成立という中で委員をしております。

経済産業省としてもこれまでの工場立地による地域経済の活性化、つまり第二次産業を中心とした地域経済の活性化から、第三次産業による経済活性化ということが大事ではという意見が始まっております。地域未来投資促進法はスポーツ、文化、観光が地域の未来投資につながるということで、これまでの工業立地から第三次産業による地域経済の活性化ということを目標にしておりまして、私はスポーツの担当ですので経済産業省の方でもスポーツによる地域経済の活性化という点で意見をさせていただいております。研究者の立場から言うと今スポーツ庁が掲げているのは、体育からスポーツへというこ

とです。

体育というものは明治以降の国民国家を作るための必要な国家の機能として成り立っていたわけです。それによって体をつくり組織をつくりみんなの意見を集中することで日本国ができてくると。ただこれが現在社会においては、それとは違う側面がでてきて、まさに90年以降の東西冷戦が終わり、新しくテロとの戦いはありますけれども国民国家づくりではない部分での体との関わり合いが必要だと、その価値を大きく持つのはスポーツであるという発想でスポーツ庁は完全に体育からスポーツという用語を使っています。

その影響もあってか日本体育協会は来年度から日本スポーツ協会になることになっております。日本の体育というのは非常に狭い意味で使われていたので、変える意味でも、今我々の方で語っているのはスポーツの持つ社会的価値つまり正の価値もあるし負の価値もあるわけですが、それらをいかに正の価値、特に秋田県において秋田県のニーズに合った正の価値に転換するということが非常に重要になってきていると思います。

私は、秋田県のスポーツ推進審議会の委員をしております、まさしく他の委員がおっしゃっていましたように、高齢化社会であり、おそらく人口減社会も持っているので、人が集まる空間は一体何を意味しているのかということ突き詰めていくことが大事で、そのきっかけになるのがスタジアムにあるのではなかろうかと思います。

更にいうと、これまでは他の委員がおっしゃっていましたが官民という形でやりましたが、これからのスタジアム整備のあり方についてはハードだけではなく、本来、管理から運営、経営まで入っていかないと地域全体のマネジメントの拠点としてのスタジアムという発想が必要で、管理しているからなるべくきれいなままで保ちたいから使わないでねというのでは、おそらく頓珍漢になると考えておまして、運営形態のソフトの部分に関しても、実は検討すべきかなと思っております。

更にいうと、例えばこうやって公開したのは非常に良いことだと思っておまして、現代社会はSNS等を通じてシェアするということがありますので、こういった会が秋田に動いていて議論されているということをもみんながシェアしていくという運動に巻き込めると良いのではないかと考えています。是非、まだ何回かありますので私の持っている最新知識を提供させていただければと思っています。

委員

今回ブラウブリッツさんの素晴らしい成績を契機にしてこの問題が提案されたと私は思っております、いろいろなことを言ってもこのブラウブリッツさんの快進撃がなければこの問題はある意味ではこういう土俵はなかったんじゃないかと、あまりきれい事は言わないで、そのために1万人を収容するものがなければ二部に上がれないという現実をみんなで分かってやって、そして何とかこの球技場を造りたいと私は大賛成です。

それで建てる場所を見ますとサッカーもラグビーも、ウォーミングアップのための

サブグラウンドを使っていますので、屋根付きでなければだめかと思いますが、新しいグラウンドに屋根付きの球技場で、いろいろとウォーミングアップにも使えるのか、あるいはエンターテイナーを呼んできて収益を上げればいいというのがそう簡単ではないと、ただし、返済原資が税金だけでは貧乏県の秋田ではなかなか難しいと、難しいけれども造らなければいけないこういうことだと思います。

ブラウブリッツさんにもお願いして、収益自体をブラウブリッツさんが上げてその返済原資に一部回るのかどうかわかりませんが、いずれそういう形でまず造る方策をみんなで工夫して考えてやっていきたいと、この陸上競技場のトラックがある部分、住民の騒音の問題や照明のことがいろいろございますので、ラグビー場はラインと芝生の長さが問題、改修費の問題もありまして、こういう形で新しく造るということですので、私は大賛成ですが、先ほど言ったようなことを早くクリアできるように、みんなでそちらにまず、先ほどどなたかがおっしゃっていましたが議論を結集していかないと、あまり法外なことを言ってもなかなか私はスタジアムはできないと、お金は天から降ってこないと思いますので、そういう形で進めたらいいのではないかと思います。

委員

地域活性化の話もいくつかありましたが、今のご時世というものは地域毎の戦い競争が強いと認識しております。制度自体が良いかどうかという評価は別にして、例えば、ふるさと納税は税金の奪い合いをしている制度というものもあったりするわけでございます。

そういった中で、スポーツというものは、特にJリーグですけれども他の東北各県や全国との戦いで競争という側面が強い訳です。その中で特に、普段教えている私の大学生なんかは、良い意味での競争心をもってこの地域に勝つんだという、東北の各県には負けないんだという精神的な支柱に資するような存在になっていただければ非常にありがたいと思っています。ただ、一つ気になるところがありまして、プロスポーツというどうしてもエンターテインメント性があるものだと思っておりまして、そういった中で、エンターテインメントというものは割と時間の奪い合いという側面が強いと思います。

サッカーを見ていない人に見てもらおうという時にどう考えればいいのか、野球を見て人に訴えかけるというだけでは不十分で、おそらく家でユーチューブだけしか見ていないという人たちにも来てもらわないといけないといった事も視野に入れて考えていかなければならない。

そこで一番問題になってくるのは、移動のコストの問題、利便性の問題が大きな話になってくるものだと思うんです。その中で、スタジアムをどこに造るか、改修するかといった話が先にあるかもしれないのですが、駅から何分で来られるとか、車の駐車場があるのかどうか、具体的話で利用しやすいかどうか、来やすいかどうかといったところが、非常にそれ以降もうまく活用していけるかどうか、他の委員もおっしゃってしまし

たが、ソフト面どうやって活用していくかどうか、これからの地域活性化の支柱になれるかどうか大きな点になってくると思いますので、そういったところも視野に入れて進めていただければと個人的には思っております。

委員

お金のことはよく分かりません。ただスタジアムを造るのであれば、先ほど他の委員が言っていました。冬のことを考えてやらないと、雪が降るこの地方でやるんだったらやっぱり屋根付きでないとか多くの事を望めないということは間違い無い。

大体人工芝でやっても春先は毎日半分くらいずつ雪寄せを行いながらグラウンドを活用していますが、全部雪が消えるまで待っていれば5月いっぱいまでグラウンドは使えない。天然芝の場合は、無理をして早めに使わせていただいています。セオリーを守れば5月にならないとゲームはできないはず。

それからラグビーの立場でいうと、サッカーだけではなくて、そういうものもやりたいのであれば、やっぱりドーム構想が一番優位だと思う。今、アウトドアでは相撲とか、テニスも全部インドアでできるスタイルにしないと、テニスは今外でやっても冬はやる場所がない。相撲はアウトドアではない。こういったものも基本的にできるような構想となればドーム型にしないと半年間無駄になると思う。

もう一つ、人口減の話も出ましたが、1947年生まれがピークでその子どもたちは今小学生で、あるいは中学校1年生で、でもラグビーをやる子もサッカーをやる子も増えてはいません。その親は今コーチで71歳、72歳です。もう10年もしたらその老人もいなくなります。急激にここがいなくなる。その二世である中学校たちも決して増えてはいない。そうすれば人口が増えるということは考えにくい。だからスポーツ以外のこともやれるように、サッカー、ラグビーだけではもたない。行政の金ではもたないと思う。まずそうはいっても俺も10年すればいない。岩瀬は10年なんかは待ってられないんだから。一つだけ金を作る方法としては、署名があれば集まったんであれば、署名はしないがお金は寄附できるとか、署名はしたけどお金を出すのはいやだという人もいるかもしれない。そういう行動に移って行政の金だけを当てにしているようでは10年でできるかどうか。非常に場所の問題もあるし、その辺はもう少し大雨の被害の後で、あまり仰々しく言わなくてもいいから真剣に考えて、スピードを持ってやらないと、勝負の世界はやってみないとわからないから。勢いのあるうちに前に進んだ方が良いと思う。やっぱりドームの事を考えないと秋田の冬をどうするか考えないとサッカー、ラグビーのドームを造ってももたない。

委員

最初にいろんな方がおっしゃっていますが、整備理念が必要で最初にそれを考えなければならぬと思う。地域を元気にするのがスポーツだという意味では、そうした視点

から考えていかなければいけないんだと。ブラウブリッツのためではない、ただブラウブリッツのために使うものでもある。具体的な整備にあたってどういうことを考えたら良いのかということをお話したいと思います。

そういう意味でコンセプトはブラウブリッツのために使うものではないとすれば、何のために、それによって整備主体が違ってくると思います。先ほど大阪の例がありましたが寄附金で140億のスタジアム。ただ、秋田に於いて何億、試算したのが60億とか出ていますが、仮にそうだとすると、屋根付きがどれくらいになるか分かりませんが、いずれそれなりの額になるので、それを寄附で賄うのはたぶん無理だろうと思います。そうなりますと整備手法としては、寄附を集める、ふるさと納税を活用する、そういったことを中心にやりながら自治体なりが地方債と一般財源で整備する手法になるんだろうと思っています。そうなりますと財源の確保の部分は良いんですが、おそらく建てる部分、これはいろいろ寄附を集めるので、課題はいっぱいありますが、集める際には地方債、一般財源等々、いくつかの市町村でやるという手法もあろうかと思っています。県市連携の文化施設みたいな形もあり得ると思います。そういった形で整備する。ここまでは多分、屋根付きまでは別として多分できると思います。一番肝心なのはランニングコストをどうするか。それは活用方法がどうなるかになる。いわゆる公の施設、県民が使うまたプロスポーツが使う、そういった一般の広く使っているものを整備するということになればいろいろ収入はあるかと思いますが、少なくともランニングコストのある程度の部分は捻出できなければならないと、相当の部分を出せるような形にしないとうまくいかない。

そのためにはどのような活用方法を考えるのか、どのように使わせていくのか、今立派な物を造れば造るほど、今度使用料を多く取らなければならなくなったりする面もある。そういった部分も考え合わせながら、この中で検討を進めていければと考えております。いずれ他の委員のお話にありましたように、整備するという方向で行くのはそれはそれで結構だと思うが、活用方法、ランニングコストといったことを十分に配慮しながらやっていく必要があると思います。

委員

県スポーツ推進協議会の会長をやっているが会全体の意見ではありませんのでお願ひします。スポーツ推進委員会としてはブラウブリッツの方に協力体制をとってハーフタイムの時にドンパン体操などで応援してきております。その時の持ち出しのお金も少ない金額ではないことで協力してきている。ただ、この会に出るにあたって気が重かった点は事実です。

昨年、福井で開かれた時にサッカー協会副会長の岡田氏の講演を聴きました。今治の中で奮闘している話を聴きました。その時一番感じたのは、本体であるべきブラウブリッツが何を県民に求めているのか、それから自分たちで財政をどのようにして、ここが

足りないからここをこうしてくださいという話であれば良いのですが、全部が県民に預けるということはプロとしては疑問なのかなと。収入は自分の方に入るし、負担は行政という、私の認識が誤りであれば良いのですが、非常にそのように感じます。自分の方ではこういう街づくりをやって、この部分こうやってやりますよと。そこは協会の岡田副会長は自分たちでやっていくんだと述べていました。本当のプロだなと感銘を受け帰ってきた。

やはりサッカーはラグビーと違って、強いチームが必ず勝つとは限りません。ラグビーの場合は強いチームが勝ちます。サッカーはそうでないです。その辺を含めて、今あるもので少し手を加えてやるのか、それともブラウブリッツが独自のグラウンドを持ってやるとすればその財源を自分たちでどうやって捻出していくのか、それを県民にどう理解してもらうかでまた違ってくると思うんです。確かに今回も会議をやっているんですが、本来であれば自分達で募金活動をやって、そして行政の方に支援を求める、収入をそこで得るのであればそこを目指してやるべき姿が一つではないかと思います。自分とすれば昨年の福井の岡田副会長の話が強烈に残っています。その辺だけ述べておきます。

委員

青年会議所は明るい豊かな社会の実現のために事業を展開しております。それは青少年の育成や環境に対する取り組みなど、いろいろな取り組みをさせていただいております。そうした視点から意見を述べさせていただきます。

いろいろな意見が出ておりますが、ブラウブリッツの後援会の方々が動いて18万もの思いを集めてきたということが一番ではないかと思っております。18万筆は18万の方々が秋田のスタジアム整備について、興味をもっていただいたという一つのきっかけになっているものと思います。秋田は今少子高齢化、人口流出と暗いニュースが多いわけではありますが、今住んでいる子どもたちの将来のために我々が何とかしなければならぬと思っております。

この18万人の思いが何のために書いたのかというところを汲み取っていきながらも、秋田がもっと元気になるきっかけになっていると思いますので、スタジアム建設に関して個人の立場ではありますが賛成の立場であります。そしてスポーツによる感動をもっともっと広めるためにもスタジアム建設は一つの手法になるのではないかと思っております。

委員

発言の順番が後半になりましたので皆さんの考えを聴いて非常に悩ましいと感じています。課題という点で自分の気付いたことを述べさせていただきます。1点目は皆様のご意見にありましたが、この会の進め方、コンセプト、スケジュールというものをど

う考えるかが非常に大事になると思いました。それはやはり皆さんの言葉としてブラウブリッツが使うけれどもブラウブリッツだけではなく、将来の街を見据えてというご意見があったとすれば、この進め方ははたしてスタジアム整備がJ2とかサッカーをきっかけと捉えてどういう進め方をするのか、将来の秋田県の街づくりを考えてどう進めていくのか、両極端の視点があると思いますので、コンセプトとスケジュールをどう考えるのかというのが非常に悩ましいなと思いました。

スタジアム整備の意義をしっかりと共有して進める必要があると感じました。その後になると思いますが、地方公共団体とかスポーツチームの役割があると思うのですが、ここにハードとかソフトとか、人、ネットワークという視点が必要だと思ひまして県民市民も関心が高まったらなぜスタジアムが必要かということ自分たちが語れるとか、サポートできるような関心を高めていくということが大事で、キーワードとしては行政だけではなくとありましたが、まさに県民市民を巻き込んでいくプロセスが大事ではないかと思いました。行政の立場で非常に悩ましいと思った三つ目の課題は、エリアマネジメント、街づくりの事だと思います。きっかけとして早めの実現したいという気持ちも分かりますが、早めにやり過ぎると、土地がある場所を使う、そうするとどんどん街の形が考えられないままいく。そうすると、スタジアム・アリーナ改革指針を事前に読ませていただきましたが、周辺の波及とか、街の賑わいとか、そういう視点があるか、エリアマネジメントをしっかりと考えなければいけないという現実的な課題も、コンセプトやスケジュールの後に付属して出てくるのかなと思いましたので、こういうメンバーで集まった会ですので皆さんの知恵とか意見を集めて良い方向に持っていければと思います。

委員

今日は観光連盟の理事として参りました。観光で考えると今本当に秋田はなかなか武器を持っておりません。一つかなり象徴的な良いスタジアムができれば、一つの新しいコンテンツができるなど期待しているところです。ただ、僕の認識からすると来年上がろうという場合に、ドーム型は賛成ですが、ドーム型にしてコンベンション等々もできる複合的なものが良いと思うのですが、できあがるまでJ2に上がれないとかないんですよね。とりあえず何か、そこが違えば10年後まで上がれないんじゃないかなという思いがあります。まずJリーグさんのお考えでしょうから、これだけやるから是非来年何とかよろしくという話をつけてもらいたいというのを前提に意見を申し上げます。

造るんでしたら是非素敵なグラウンドにしてほしいなと思います。変な言い方ですけども、こまち球場で前巨人のナイターを見に行っただけですが、選手への照明が暗いんですよね。あまり東京ドームと比べて格好良くないというか、お相撲を見に行っても国技館なんかは照明がとてもきれいでお相撲さんがとっても格好良いです。どうせやるん

だったら選手が輝くようなスタジアムにしないと面白くないと思います。また、私の友人で埼玉でサポーターをやっている方がいるんですが、秋田がもし上がれば絶対行くよと言っています。そういった意味でサポーターの方々も全国回っているでしょうから、秋田だったら行きたいと言えような環境を作ること、選手にとってサポーターにとって良いものを造らなければ、いろんな用途を増やしても結局中途半端になってしまうと感じます。

場所は、秋田は二次交通が課題ですので、是非駅から徒歩圏で行けるエリア、八橋はぎりぎりOKかなと思っています。試合の後にはバスを走らせるとか、いろんな工夫をすることによっていけるんじゃないかと考えております。いろいろ大変だと思うんですが、中途半端なものを造るよりは、無駄なものは造ってもしようがないですけども、無理をして知恵を出さないと、今この負けている秋田が逆転する契機にはならないと思います。中途半端なものを造って、また、暗い将来を感じるよりは、僕は是非100億と言わずもっとお金をかけても良いですから、是非良いものを造って知恵を出し合って、どうランニングコストを生み出すか、稼ぐかというのを是非頑張りたいと考えております。例えば、今日ここで会議をしておりますけれども、県もいろんな施設があつて今後壊さなければいけないものも多いと思います。であればそういった会議等も出来れば、いちいち県内のホテルを使うのは予算が無いとか、駐車場スペースが足りないとかといった問題もあるようですので、そういった県の今後管理しなければいけない施設の統廃合も踏まえて考えれば、いろんな予算が見えてくるのかなと感じております。

最後に私の勝手な妄想ですが、競技スタジアムが出来ることを機に、できれば八橋全体が子どもを連れてお昼ご飯を食べに行けたり、サッカーボールを持っている親子が遊んだりとか、イベントがあつたり、今いろんな街を賑わせる屋台村とかやっていますが、あれも給排水が無いので秋田の資産であるお米が出せないとかありますので、普段はバーベキューエリアにしながら、駅前を中心市街地とは別なゆったりとした空間でスポーツとも触れ合いながら、イメージは代々木公園あたりが好きなんですが、憩いの場を八橋全体ができたかなと思っております。是非、せっかくこう集まったんですから、やりましょう。やって、その代わり知恵を使って無理をしなければ良いものはできないんで、是非そういう立場で今後参加していきたいと思います。

委員

ブラウブリッツのホームタウンの一つとして男鹿市が名を連ねているというところで今回参加したものと思っておりますが、特にブラウブリッツには今スポンサーとしてお支払いもしているわけでもございませんし、試合が出来る会場があるわけでもありませんし、非常に心苦しいところがございます。

その一方で、大会等を男鹿市で開催していただいていることに感謝申し上げたいと思います。男鹿市は今回のスタジアムの会場としての候補地になるとは個人的には考えて

おりませんが、人口2万7千人の町で毎試合1万人以上の方がいらっしゃるというような事を考えると、おのずと場所としては限られてくるのかなと考えております。個人的に感じておりますので、やはり今回のきっかけになったのはブラウブリッツの成績、J2に上がっていないというところがきっかけになりますので、そのためにはそのステージに上がるためのサポートができるような、そういうスタジアムづくりが大事かなと思っております。

具体的には、多くの観客が喜んで来ていただけるような会場、また、観客にとってやさしい会場、スタンド全面が屋根に覆われて少し寒い冬場でもストレスなく観戦できる環境、多くの方がスタジアムに来ていただけることがスタジアム経営の上でも、非常に後押しになると考えられると思います。そういったことが賑わいの創出にも繋がってきて地域活性化にも繋がっていくということが、考えられると個人的には考えておりますので、賑わいの創出、多くの方が集まれるということをできれば議論していければと考えております。

委員

今回スタジアムのあり方検討委員会になぜバス協会が委員に選ばれたのか考えましたところ、実はバス会社とスポーツというのは大変密接な関係がありまして、プロ野球があればスタジアムにお客様を運んだり、選手を運んだり、そういったことを役割として担っているんだと思います。先ほど他の委員もおっしゃいましたが、新しいスタジアムができるには、やはり利便性が重要であると思いますので、その際にはバス協会としても積極的に協力できるように、また、重要な役割を引き続き担えるようにやっていきたいと思っております。

秋田県のため、そして子どもの将来のためというのもありますけれども、私個人としてはこういった検討会、機運を高めてくれ頑張っている選手のためにも、スタジアムは必要だと思いますし、冬の問題だったりもありますが、サッカーのみならず完成したら大物の歌手が来て秋田でライブをやるとか、そういったことも出来ると思いますので、集まっていたら皆さんと知恵を出し合いながら秋田県として自慢できるスタジアムを造っていけるように頑張りたいと思います。

委員

男鹿市さんと同じようにホームタウンということでこの委員の中に選ばれているものと認識しております。元々本荘由利地域TDKということで、当初から由利本荘市とにかほ市さんは協同でサポートしてきたところがございます。そういった観点から行政としての支え方、どのような事ができるのかなと考えております。

最近財政難ということで、現在のサポート体制も以前よりは確かに薄くなってきているところが正直なところだと思います。その裏にはもともとにかほ市TDKということでありま

したが、拠点が秋田市に移ったということもありまして、やはり市民感情そういったものの税金を投入していくためには、そういったところを考慮しながらやっていかなければいけないという行政の辛いところが正直なところでございます。ですから今回のスタジアム計画、整備につきましても、やはり県民も当然ですが市民も納得できるような形で、やはり何のために、コンセプトとか、どういった形でやっていくのかというものはっきり示せるようなものでなければ、税金の投入というものはなかなか厳しいものがあるのではないかと考えております。

そのためにもいろんな分野の方々からいろんなご意見をいただきながら、造っていくという方向には基本的には間違い無い方向に進んでいくとは思いますが、整備手法、どういった形でいくのか、行政の負担がどういった形になってくるのか、そういったところをある程度基本的な部分をこの会で決めていけるような形にしていかなければ行政としての対応は厳しいものがあるのが現実ということを認識していただければと思います。大変厳しいご意見であります。ホームタウンとして最大限のことができることを行っていきたいと考えております。

委員

今回のこの会のきっかけは1年前の岩瀬社長の「J2昇格のスタジアムがありません」から始まりまして、今回18万人の署名という形で大変盛り上がり、大変素晴らしい事であると思っております。ここでスタジアムを造るとしましても、この考え方の一つとすればスタジアムが公共施設という形で進める形になろうかとは思いますが、そうなりますと18万の署名をした方々は、ブラウブリッツのスタジアムという発想があると思っております。公共施設となりますと必ずしもブラウブリッツさんには申し訳ないですが専用や最優先で使える施設にはならないかと思っておりますので、そういった事も考えて、ブラウブリッツさん18万の署名を考えるとすれば、ブラウブリッツさんが専用、最優先で使える形での整備手法・整備主体を考えていく必要があると思っております。

委員

この検討会の担当課としてお礼と言いますか、この検討会で皆様方からいろんな立場でご意見をいただきまして、県のスポーツ行政に携わるものとして非常に有り難いと考えております。今まで皆様方のご意見をお伺いいたしまして秋田のスポーツをどのように推進していくか、どのように元気にしていくかということ、いろんな立場で、いろんな見知からお話をいただいて非常に嬉しく思っているところであります。

県のスポーツ行政に携わるものとしては、スポーツを通して県民の生きがいがづくり、それからスポーツを通して元気になってもらうといったことと併せて、競技力の向上を応援している県民の皆様が夢と希望を与えられるようなトップ選手を育てていくといったようなことを日々やっているわけですが、やはりその中で、一番私自身が常に

考えることが、やはり他の委員からお話がありました。今現在秋田県が日本一の少子高齢化県であるということでもあります。

非常にマイナスとして、とらえられがちでありますけれども、この先日本のどこの自治体も少子高齢化が進んでいくといった意味では、秋田が逆に先進県として、そういった状況の中で、何をしていかなければいけないのかということを経験を通して考える必要があると考えております。それで健康寿命日本一を目指す、知事が話しておりますけれども、その中でスポーツを通して健康寿命日本一を目指すために何ができるのか、そのために一つとして仮にスタジアムを整備するとすれば、それに向けてどのような役割を果たすことができるのか、どのようなことが期待されるのかということとは私自身としても今、常に考えているところであります。

いろいろなご意見をいただきまして、特に多額の財政負担があるわけですからその整備をするための財源としても皆様方から今後いろいろなご意見を伺いたいと思っておりますし、先程から委員の皆様からお話がありましたように、10年後の秋田、15年後の秋田、そのためにこのスタジアムがどうあるべきか、それについてこの場で皆様方のご意見を十分出していただき、あの検討委員会があつてこうなって良かったというようなことを本当に期待しております。これから事務局としても資料を揃えたり、情報を得たりということをやっていきたいと思っておりますが、皆様方のご意見をお聴きしまして大変感謝しております。どうぞよろしく申し上げます。

委員長

皆様から様々な意見が出ております。この機運でという考えの方もいれば、機運に乗って良いのだろうかという考えもあります。それからコンセプトが分からなければだめではないか、スケジュール、エリアマネジメントなど、両サイドの意見があつたように思います。まだ時間がありますので、各委員からご意見いただきましたが、感じるころなどいろいろあることと思います。ここからはフリートーキングで行いたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員

確かにスケジュールは大事な気がして、もともとのきっかけはブラウブリッツのJ2ライセンスというところがあるんですが、今もし事務局の方で、また委員の中におかれてサッカーのスタジアムとして喫緊に迫られているスケジュールとか、後は中期的に、もちろん造る造らないという意見をまず議論しなければコンセプトを決めなければいけないと思うのですが、事務局、県としてのスケジュール、いつまでに何をやりたいという目標年月があれば、事務局にお聞きしたいのが1点と、後は勝手ながら思っているのですが、委員からお話のありましたドームというものはやはりそうなんだと思って聞いておりました。

秋田という場所におかれては秋田の気候条件とか屋根・ドームというものを考えないと、実際に造るかどうかは多額の費用がかかりますので、これは大きな議論になるかと思いますが、ドームという中に込められていた部分として秋田の気候条件、そしてサッカー、ラグビーだけではなくて、北都銀行のバドミントン、ハピネットのバスケットボールというところにも、スポーツ立県あきたとして考えなければいけないんだなというところは、私自身あらためて認識できましたので、課題としてそういったところをスポーツシーン全体を考えていくきっかけになればいいと改めて思いました。事務局への質問1点と私の感想の2点です。

委員長

事務局に対してご意見がありました。

委員

私の方から。喫緊にある程度スケジュール的に優先して決めなければいけない期限的なものを考えますと、まず一つはブラウブリッツがJ2に参入するためには、来年の6月30日にJ2の仮申請をJリーグにしなければなりません。その時にスタジアムに関しては、新しい完全に条件を満たしたものとしては来年、再来年にできるわけではありませので、ある程度の時間はかかると思います。

まず一つは、その6月30日の申請の段階で、知事なり建設する場所の自治体の首長が、Jに何年後にはこういう風に造りますよと確約することが必要です。ということは6月30日までに知事や自治体の首長さんにご決断をいただかなければならない。そのためにはある程度の建設に対するスケジュール感であったりといったものが必要であると思います。もし、この検討委員会の中で、秋田に合ったもので造るべきではないかという皆様のご意見であれば、その中で皆さんに、どこに、どういった形で、どういうスケジュール感でというものをご議論いただきたいと考えております。

それが一つと、併せてそのスタジアムが出来るまでに時限的な整備で、Jリーグ側が良いだろうというような簡易な改修といいますか、それをJリーグ側からどこまで条件を引き出せるか、これはやはりチーム側から頑張っていたいただかなければいけないと考えております。その2つが揃わないと来年の6月30日の申請は無いと考えております。ですから皆様にはそういったことも頭に入れていただきながらご議論いただければ有り難いと考えております。

委員長

委員、今の話の流れの中で何かありますか。

委員

ずっとJリーグにはいろんな話をしておりまして、大きい要因といたしましてはJリーグといたしましても新スタジアムについて一応、自治体の皆さんとどこまで色濃いコミットができていたのかといったものが重要なものとなっています。具体的に言えばコンセプトという話がありました。どのようなものを、いつまでに、どこに、だれが造るのかといったこの問題が、コミットがどこまでできているかが第一条件であります。

もう一つは、今、委員がおっしゃっていただいた既存施設といったものでどの程度のところまで、許していただけるのかといった部分でございます。第一条件としては、①のところをいかにしっかりと6月までに言えるのかといったところでございます。そういった中で、先程来皆さんからお話のありましたことに補足させていただきますと、まずはこの間ノーザンハピネッツさんが10周年を迎えました。チェアマンの大河さんという方が秋田に来られてこんなことを話していました。この方は元々Jリーグのナンバー2をやられて、Bリーグが出来てそちらのチェアマンになられて、僕も知ってる方です。おっしゃっていたのは地元のスポーツクラブは民間のプロスポーツクラブとして考えていただきたいと。いわば一言で言うと公共財であるということを皆さんには認識いただきたいと言っておりました。私もそのとおりだと思います。

スポーツ団体、プロスポーツ団体が地元に与えるいろんな効果、いろんな影響といったものは、必ず秋田の活性化につながると私は確信をもっております。これは今Jリーグが54チームあり、J1、J2のチームで40チームありますが、いわば40地域がそれをもっていろんな形で地域の誇りやアイデンティティ、いわゆる高齢者といった部分に関してもいろんな効果を与えているのが実状でございます。

先ほど、今治の岡田さんのお話がありましたが、私も2週間に1度岡田さんとはJFA日本サッカー協会とJリーグの将来構想委員会という会がありまして、そこでいつも隣の席で仲良く話をさせていただいておりますが、今治のお話も実は全部が全部今治が行うわけではございません。例えばグラウンドは自治体の所有として、スタンドからコンコースまでの施設は民間所有という形とか、区分所有をした形でいろんな運営手法等々でやりくりしています。今、加計学園の問題もあります。岡田さんもびくびくしているのは国のtotoですとかを狙っている中で、また今治かという風に言われぬかということに危惧しておりましたので、決して全部全部が自主財源でやるという形ではございませんので、そこだけは補足させていただければと思います。

私今回、国の補助をいただくに当たって、コンセプトといった部分で提案といいますか、秋田の高齢者であったり、健康寿命であったり、そういった部分の課題といった先進県であると私はとらえております。その先進県の課題を逆手に取って、秋田のスタジアムは健康を発信できるスタジアムなんだよという形で、例えば、今朝からおじいちゃんおばあちゃんが歩いています。ランニングしている人も沢山います。そういった中でスタジアムをインナーコンコースにすることによって、冬でもおじいちゃんおばあちゃん、OLの皆さんであったり、県民の皆さんがスポーツに触れられて、歩く人は歩く、

走る人はランニングをする、健康を管理できる施設ができれば一番良いのではないかと、例えば、今、市立体育館なんかでも冬なんかは肩があたるような形でランニングをしている方が沢山います。冬になれば逆にランニングができない。ウォーキングができないおばあちゃんおじいちゃんが沢山いますので、そういったバリアフリーではないですけども、高齢者に優しいスタジアムができることが一番ベストではないかなと思います。

そういった意味では国の先進事例に当たってくるのではないかなと思っていますので、そういったものを活用して、どんどんスピード感をもっていければ良いのではないかなと思っています。ランニングコストと寄附金等々がございませう。吹田スタジアムの件に関しては、パナソニックさんが大部分を出しておりますし、今吹田スタジアムの殆どがパナソニックさんのショールーム化しております。北九州のスタジアムも世界で初めてTOTOの水洗トイレが全て入っております。そういった形でメインスポンサーになっているTOTOさんのショールームになっているのがこの2つのポイントになっているかなと思います。秋田で考えますと、ショールーム化する企業さんというのはなかなか難しいかなと思っています中で、今、セレッソ大阪さんは民間から寄附金を集めたり、ふるさと納税を使ったりですとか、いろんな手法で資金をしきりに集めております。我々も2週間前、セレッソ大阪さんにお伺いし寄附金の集め方等々を学ばせていただいておりますので、そういったところも行政の皆さんとしかるべきタイミングでオープンにできればと思っているところでございませう。

委員

私も皆さんの意見を聴いてなるほどと思ったことがあります。今、委員からいろんなアイデアが出ています。いろんな意見はコンセプトができて、いろんなアイデアも出てきて、例えば敷地が市であれば市としてできるのかとか、県として制度上できるのかとか、常に素早く判断する、もしくはそれを打開できるのか、できないのかということをお我々も知らないと空論を述べているだけになりますので、例えばJリーグさんが宣伝している中で、スイスでは福祉施設がスタジアムに入っていると、高齢者が福祉施設で生活しながら試合の時にはベランダから見えますよというのが、福祉施設を今度のスタジアムに入れられるのかとか、例えばカシマスタジアムではもう診療所をやっています。

そういう診療所をオープンできるのかとか、地元と医師会との交渉はどうなるのかとか、テナントをその施設に入れた場合、スイスの事例では地下が完全にスーパーになっています。そうなってくると今度のスタジアムの下にイオンが入っても良いのかとか、具体的に言うとそういうことが可能なかどうか、おそらくそういったことを考えて具体的にできるのか、できないのかをしていかないと、おそらくスタジアム単体で従来型の体育施設としての競技場を造ってしまうと、おそらくランニングコスト的にも非常に難しい状況になると思うんです。

そういう意味ではアイデアを是非集めていって、毎回時間がないので集めていただい

て、それができるのかできないのかを、自治体の方と話をさせていただいて打開するにはどう動くのかということを検討すると良いと思います。それからこれは2人の委員にお願いすることかも知れませんが、冬のエリア、Jリーグさんは秋冬とかいろいろ意見はありますが、冬のエリアのJリーグさんとか、県の方、サッカー協会の方がまとまってどうすべきかということ、是非Jリーグさんなり、日本サッカー協会さんに言うべきで、統一のJリーグの基準で縛られると出来ない部分というものがあると思うんです。そのあたりは積極的に言っていくべきではないかと思っていまして、それがおそらく秋田で実験しますから、これを見てくださいということまで言ってくると、かなりJリーグのスタジアム基準は私は必須条件として従うべきだとリーグに参加する以上従うべきだと思いますが、秋田としての事情、雪国としての事情はこうなんだというのを、検討してくださいというのを強い勢いで言っていただきたいと思います。

委員長

今の、できる、できない、様々なアイデアベースの事に対して、委員の方から、例えば地下にイオンを持ってこれるのかどうか、そういう話、アイデアを集約して、これはいろんなルール上できるのかできないのか、そういう話は事務局の方で次からはさばくことはできるんですよ。

事務局

はい

委員長

アイデアのある方から聞いていただいて、行政としてできるのか、できないのかということ、星取り表ではないですが、〇×にしてみれば早いのではないかと思いますので、その対応をお願いします。

委員

そこは事務局の方で対応したいと思いますし、ブラウブリッツさんとは定期的にいろんな情報交換もさせてもらっていますし、これは先ほど、委員もおっしゃいましたが、同じプロスポーツであるハピネッツさんとか、クラブスポーツであるノーザンブレッツさん、それからバドミントン、秋田銀行のバスケット等々、トップチームとも全国でトップレベルで試合をしている上で、世界の状況を見つつアイデアをいただければと考えております。併せて委員の方々も、こういうのはどうだというアイデアがありましたら、どんなことでも良いですから事務局の方にお寄せいただければ次の委員会、委員会自体は4回程度という非常に少ないですので、合間合間で、是非いろんな形でご意見をお寄せいただければ有り難いと思いますのでよろしくをお願いします。

委員長

事務局ではそのように対応したいということですので、各委員におかれましては、正に思いつきアイデアで良いと思いますので、こういうのはできるのか、できないのかという部分を事務方の方へぶつけていただければと思います。

委員

後援会から出ている署名の話がでていましてありがとうございます。我々は決して署名のための署名をしたつもりはございません。その署名用紙にも書いてありましたけれども、もちろんその中には元気になってほしいということに乗っかって書いてくれた人もいると思うんですが、後援会の一つの責任として感じていることをこれからお話ししたいと思います。機運の先にある地域市民、一般市民の方、市民、県民の方々の理解という大変何となくぼやけるわけですが、後援会の役割としては、そういった勉強会ですとか、スタジアムが出来たらこうなるということ、企画段階ではありますけれども、後援会が主催で行っていきたいと思っています。

それが我々の責任であると思いますし、それによって参加していただいた方、参画していただいた方に、一人でも多くの方にきっかけづくり、スタジアム論議を呼ぶ機会を作っていきたいと思っておりますし、もう一つプロでありますけれども、是非これを育てるのは私は企業だったり、応援するファンだったり、市民、そこに居る地元の人たちの役割であると思っています。

中国地区になりますけれども、広島カープも昔、財政難の時に樽募金をやってですね、自らもちろんお金を出しますけれども、プロ球団を育てるそういった楽しみを無くしたくないということもありましたので、別に我々後援会としましては、サッカーを知らない人、ブラウブリッツを知らない人も巻き込めるような、参画できるような機会を作って、この論議を更に深めていけるような活動をしていきたいと思っておりますので、是非、ご案内を申し上げますのでよろしくお願い致します。

委員

先ほど委員からお話がありましたように、この検討委員会の流れをずっと見ているんですが、もっともっとゴールを明確に簡潔に示して、この議論を進めた方が良いのではないかと事務局に提案させていただきたいと思っております。どんなコンセプトで、いつまでに、どこに、だれが、どういった流れで造っていくかという目的をこの協議会で明確に皆さんと共有ができないと始まらないし、結局良いアイデアが出て、何処にといったものが決まっていなければ、それがやれるのかやれないのかも判断できないと思っておりますので、その辺はもうちょっと明確に示していただければと思っております。

委員長

委員から今そのような話がありましたが、他の委員からも同じようにコンセプトの問題、スケジュールの問題、エリアマネジメントの問題など、根幹に関わる部分だと思います。そこいら辺を今直ぐ整理して出せとは言いませんので、少なくとも次回までは分かりやすくはっきりしたものを事務局として作っていただいて各委員の皆様を示していただければと思いますのでよろしくお願いします。

委員

そのようにしていきたいと思いますが、我々としては17ページにあります、今後の検討委員会の流れの中で、それぞれ2回、3回、4回の議題というものを、そこに載せさせていただいております。当然のことながら、その中で今おっしゃったような、場所、スケジュール、コンセプトといったものを、当然この議題の中の検討になるものであらうと考えております。そういった意味でこの議題を、具体性はなく、幅濃く取っていただけるような議題の書き方をしているわけですが、当然のことながら考えていきたいと思っております。

場所ということになりますと、そこをエリアでとらえるのか、ピンポイントでとらえるのかということ、少し皆さんと検討させていただければと思います。いろいろと場所となると、いろんな所からご意見が入ってきたりするということもありますので、そこは最終的に詰めていくにしても初めは、街中にあるべきなのか、あるいは準郊外であるべきなのか、郊外であるべきなのかといったご意見があると思っておりますので、そういったことから突き詰めて最終的な結論を出していくといったような方向性が出来ればと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

委員

次の会までに、決めるといってもドームにするか、しないかでコンセプトも予算も全部変わってくると思うんです。ですからまだ時間があるようですから、この後、ドームをどうするかですとか、場所に関してはある一定のものをまとめないと前に進まないような感じがするのですが。

委員長

今、委員からそういう意見が出ましたけれど、この第1回検討委員会ですか。

委員

この検討委員会はどこまでやる会なんですか。

委員長

今日の検討委員会は、皆さんからどういう思いがあるかというのを専ら出してもらうのが主でありますので、当然事務局の方で第1回目の検討会ということで資料を説明しましたけれども、最終的には今日を入れて4回の委員会をやることによって、一定の方向性を年内に出したいと、そこまで、そこで皆さんの意見を集約するというよりは、それぞれの委員の方からどのような思いを持っていらっしゃるのか、全く対局の意見でも構わないと思っておりますので、そういう意見を今日はいただきたいという主旨の検討委員会です。

委員

承知しました。間に合うんですね。では全然問題ないです。

委員

先ほど話したようにどこまでコミットできるか、どこまで文書に落とし込んであるかというのが非常に重要かと思っています。この協議会の重要性が大きいのかなと思っていますので、本当にこの協議会が秋田の未来を変えたねと言われるような協議会であってほしいと思います。

委員

多分6月にJリーグと仮に造るとなると、じゃあその建設期間中条件を満たす場合、私はある程度県民とかいろんな方からの募金なりが集まっている状態であった方が、より良い条件を引き出せるんじゃないかと思います。そういった活動もできるだけ早い段階でスタートさせた方が、良い条件になるようにスピードを早めたいと思います。

委員

事務局にご相談ですが、国の調査に応募されるかもというご提案が委員からもありました。今日の資料にも書いてますとおり、国の次の調査というのは、第二期夏頃公募予定とあります。具体的な日にちまでは認識しておりませんが、多分この頃になるだろうとの認識はありますが、実はこの第1期に応募されたところにいくつかご縁があって見ると、これに採択されると、こういう協議会の場に皆様のご要請に伴って、例えばスポーツ庁とか法律とかプロスポーツクラブとか他の先進事例をやってらっしゃる経営者の方とか、アドバイザーとしてゲスト参加する形になったり、場合によってはコンサルタントとして事務局側に座ったりし始めて、実は様相ががらっと変わる可能性があります。

一方で、次の皆様の検討委員会はラストの17ページを見ますと、29年の8月下旬から9月上旬に開催予定ですので、実は第2回の時には国に応募する期限が終わってし

まっている可能性がありますので、今日ここで決議は取れないと思うのですが、もちろん判断されるのは県様側であられるかも知れませんが、ブラウブリッツ様かも知れませんが、その時にこの協議会というものをプラットフォームに使われる場合は、ご判断はお任せいたしますが、場合によっては委員の皆様にもメールで事前にご相談とかになるんじゃないかなと思います。第2回はもしかして国の調査に手を挙げるのに間に合っていない可能性がありますので、そこは委員の皆様にご相談の仕方は、ご提案というか、ご配慮かなと思います。

委員長

今、委員から国のスタジアム・アリーナ改革推進事業の先進事例形成事業の着手について、タイミングの問題があることについて話がありましたが、事務局でどのようにお考えかという問いかけがありました。

委員

この事業に関しましては、スポーツ庁に伺って、どういう状況なのかということを経験収集はしております。初めは8月の中旬というお話でしたので、そこではっきりすれば検討委員会にも情報としてお示しできるのかなと思っていたのですが、先般、聞いたところ公募が8月いっぱいくらいかかるかもしれないとのことでしたので、今回は具体的なものは出せないのですが、当課には8月中には公募を始めたいと考えているというお話でした。

ですので今回はより具体的話は、今、皆様方にはできないのですが、今、委員がおっしゃいましたように、もし、受けるとすれば、当然この事業を受けるためには行政、民間、学識様々な方々の賛同を得た会の組織が必要であることが、前回の公募の条件になっておりました。この後、更に情報収集したいと思いますが、その募集要項が出た段階で、本当にこの検討委員会をやっていく上で、絶対に受けてやった方がプラスになるだろうという判断を、できれば委員長含め事務局並びに皆様にもメールでお知らせいたしますが、判断の方を委員長含めお任せいただけるかどうかを一つお伺いしたいと思います。

どこが申請者になるか、県が申請者になりますと、当然9月議会を通さなければなりませんので、事業執行は10月の中旬以降になってしまいます。非常に後になってしまうということがありますので、その辺、申請者は民間でも法人格を有する団体でも良いことになっていきますので、その辺を含めて預けていただいて検討させていただきたいと思うのですが、もし、次回のこの会をやる前にメー切が来て、やった方が良いという判断になった場合に、そのベースとなる協議会のメンバーをそのまま検討委員会のメンバーとして良いのかどうかを皆様にお諮りしたいと思います。

委員長

ただ今、事務局の方から先進事例形成事業を申請することに対して、公募の公表、実際申請しなければならない時期が非常に短いということもあって、委員長と事務局の方に取扱を一任させてほしいと、かつ、決定する組織をこのスタジアム検討委員会のこのメンバー、組織でやっていきたいという提案がありましたが、委員各位この件に関して皆さんよろしいものでしょうか。ご了解いただけますでしょうか。

委員

資料の14ページに国の事業内容とありますが、この水色で囲ってある真ん中に具体的な取り組みというところがあります。その中の①で官民連携協議会の開催というふうになっています。できればこの検討委員会を、この官民連携協議会ということで申請できれば一番いいのかなと思っていますので、そういった点で母体となることを皆さんにご了解いただけるのかどうかをお諮りしたいと思います。

委員長

今の事務局の説明ですがよろしいですか。

(「はい」という声あり)

委員長

そのようにさせていただくということで、委員長と事務局で調整させていただいて、この検討委員会を官民連携協議会というものに読み替える形で進めさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

皆さんからご意見がありましたように、少子高齢化が最も進んでいる本県にとって、こうした国の事業を活用して、本県に適した施設はどうあるべきかを検討していくことは、今後、議論を深めていく上ではプラスになるものと考えられますので、応募を前提に考えていければと思います。本日の皆さんのご意見、様々なご意見ありましたが、仮にスタジアムを整備するとした場合多くの課題があるように思います。

今後、スタジアム整備に向けた課題を十分整理し、コンセプトやエリアマネジメントなどを整理して、議論を前に進めていくべきではないかとの意見が多かったように思います。委員の皆さんのご意見を踏まえ、本県に適したスタジアム整備の課題を整理し、議論を進めていくということでよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

委員長

本日の議事は終了しました。事務局にお返しします。

事務局

本日は、長時間にわたり議論いただきありがとうございました。スタジアムの議論はスタートしたばかりですが、本日いただいたご意見を集約し、第2回目の検討委員会につなげていきたいと考えております。事務連絡になりますが、第2回目の検討委員会は、8月下旬から9月上旬を予定しております。開催にあたりましては、おって文書を送らせていただきますので、お忙しいことと存じますが、どうぞご出席いただけますようよろしくお願いいたします。これをもちまして、第1回スタジアム整備のあり方検討委員会を終了します。本日は、どうもありがとうございました。

以上